



作文・詩

今回の児童・生徒のコーナーでは、南条小のお友達のお友達の作品を紹介します。



1 年
すずき こずえ

一年生になつて

一ねんせいはい、
ぜんぶで29にんなの。
みんなげんきだよ。
せんせいは、やさしいよ。
おともだちは、
ふたりできたよ。
さいとうひろみちゃんと、
いわさわひろみちゃんだよ。
おともだちを、
もっと、もっと
いっぱい、つくりたいな。
おやすみじかんは、
すべりだいであそぶのが

いちばんたのしいよ。
きゆうしよくも、たのしいよ。
一ねんせいになつて、
たのしいことが、いっぱい
うれしいな。



2 年
いとう みき

ことりは どうしてとべるの

ことりは、どうして、空をとべるの。
ふしぎだな、だつて、わたしたちは、
空をとべないのに。
でも、わたしたちは、ことりとちがつて、
とても、おいしいものが、たべられる。
そのかわりに、ことりは、「はね」が
ついて、いるのかな。



3 年
むらこし なつみ

まないたの音

おかあさんが、ごはんをつくるとき、
まないたの音が、
「トン、トン、トン」
と、聞こえてくる。
その音がすると、
いつも台所にいってみる。

わたしは、まないたの音がすきだ。
きゆうりをきるときは、
「トントン、トントン」
と、早く聞こえるからおもしろい。
まないたの音で、ねこたちもよってくる。
きつとねこたちも、
あの音がすきなのかな。
それとも、
「もうすぐごはんなんだな」
と思つて出てくるのかな。
まないたの音は、
ごはんのお知らせかもしれないね。



4 年
山崎 恵美

おかあさん

おかあさんのほおは、
りんごのよう。
おかあさんの手、
大きくて、カサカサしている。
おかあさんの笑顔、明るくて、
つつんでくれるようにやさしい。
私は、
おかあさんのぬくもりに入つていたい。
おかあさんの一日は、とてもいそがしい。
朝からばんまで、
一生けん命仕事をしている。
とても、たいへんだ。
おかあさんの仕事を、
少しでもいいから、へらしてあげたい。
おかあさん、からだに気をつけてね。



5 年
鈴木 教子

わたしの家

わたしの家はけん業農家です。
父は銚子の事務所につとめています。
あとの人は、農業をします。
休みの日の父は大変だなあと
休まもなく働いているので
農家の仕事はかどります。

母は一番早く起きて、
ごはんのしたくや、父のおべん当を
つくります。
そうじ、せんたく、
ごはんのあとしまつと、
たくさん仕事があります。
わたしも大きくなつたら
こういう仕事を毎日やるのだろうか。
祖父はわたしと同じころ起きて
ぶたに、えさをやります。
畑仕事は若い人のようにやります。
祖父は、花の手入れをしたり、
ほうきではいたり、
ぞうきんがけをしたり、元気です。
父がこんな仕事をたまに手伝います。
妹は、二年生です。
本も読むけど、
いつも元気で外遊びです。
わたしはせんたく物をしまつたり、
たまあに、ぞうきんがけをします。